

令和8年9月

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
成田市立成田小学校 (外26校)	成田市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
成田市立成田小学校 (外 26 校)	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/page198900.html

※市内共通の編成方針のため、成田市の web ページにて、まとめて公開している。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果のおよび学校関係者評価の公表 URL
成田市立成田小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-narita.html
成田市立遠山小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-toyama.html
成田市立三里塚小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-sanri.html
成田市立久住小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-kuzumi.html
成田市立豊住小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-toyo.html
成田市立八生小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-habu.html
成田市立公津小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-kozu.html
成田市立向台小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-mukou.html
成田市立加良部小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-karabe.html
成田市立橋賀台小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-hasi.html
成田市立新山小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-niyama.html
成田市立吾妻小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-azuma.html
成田市立玉造小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-tama.html
成田市立中台小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-naka.html
成田市立神宮寺小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-jingu.html
成田市立平成小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-heisei.html
成田市立本城小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-honjo.html

成田市立公津の杜小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-mori.html
成田市立美郷台小学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/es-misato.html
成田市立成田中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-narita.html
成田市立遠山中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-toyama.html
成田市立久住中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-kuzumi.html
成田市立西中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-nisi.html
成田市立中台中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-naka.html
成田市立吾妻中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-azuma.html
成田市立玉造中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-tama.html
成田市立公津の杜中学校	https://www.city.narita.chiba.jp/kosodate/jh-mori.html

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ①計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ①実施している
- ・実施していない

< 特記事項 >

毎年度、児童や教職員、保護者を対象として実施している英語教育に関するアンケートを実施し、成田市小中学校英語教育に関する検討委員会等において、英語教育の成果や課題を検証している。また、教育課程特例校による自己評価・学校関係者評価を学校だよりや学校評価アンケート、学校ホームページ等を通じて毎年度末に公表している。さらに、市の広報で年1回本市の英語教育について特集を掲載している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

成田市は国際空港を有する国際都市であり、外国人や外国籍の児童も多い。異文化を理解し、国際感覚を養い、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成することは、市内各小中学校の教育目標の達成に寄与している。

小学校においては、低学年より、外国人英語講師と日本人教員とのチームティーチングで体験的な学習を行うことにより、外国人に物おじせず、英語に慣れ親しみ、「聞く」力が

よく身に付いていることが成果として挙げられる。令和7年度末に実施した「成田市英語科アンケート」においても、「英語の学習がすきである」、「英語の学習が楽しい」という質問に対し肯定的に回答した児童の割合は8割を超え、英語でのコミュニケーションを楽しむ姿勢を身に付けている児童が多いことを示している。一方、相手や目的を明確にした言語活動の設定については課題があり、子どもたちが「伝えたい、話したい」という意欲をもち既習事項を活用しようとする意欲をもって活動に取り組むため、授業の工夫と改善が必要である。また、約6割の日本人教員が成田市英語科アンケートにおいて、「ALT 主導の授業になっている」と回答していることが続いていることも課題である。日本人教員が主導になり授業計画を立案し、ALTと役割分担をしながら授業を協働的に進める意識を高めるよう、教育委員会が各学校に働きかけるとともに、研修等で演習を実施していく必要がある。

中学校においては、小学校段階で培った、英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を土台に、「聞く」「話す」「読む」「書く」力はバランスよく身につけていることが成果と言える。小学校と同様に、成田市英語科アンケートでは、「英語の学習を楽しんでいるか」という質問に対し、9割弱の生徒が肯定的な回答をしていることから小学校から高い意欲を継続してもち続けていることも大きな成果の一つである。課題としては、目的・場面・状況を明確にした言語活動を実施する中で4技能をバランスよく身に付けること、英語科における「言語活動」や現行の学習指導要領における評価の3観点について、正しい理解が進んでいないという状況があることに課題がある。教育課程特例校として、特別な教育課程として編成している「拡充英語」については、各学校で実施方法を工夫しながら行っている。「成田のおすすめを外国人観光客に伝えよう」など、地域の特性を活かした言語活動の目的を設定し、既習事項を活かしながら「聞く」「話す」力を高め、生徒一人一人の自信を高めることにつながっている。さらに、小学校の学習内容や通常の英語科授業との関連付けを行い、効果的な学習内容を模索していくことが課題である。

(2)学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

特別の教育課程を編成し、小学校に「英語科」を設置して、外国人英語講師や外国人ゲストと直接ふれあったり、いろいろな立場の人と交流をしたりすることにより、児童は体験をとおして異文化を理解し、他国を尊重し相手を思いやるマナーを身に付けることになり、教育基本法第2条第5号及び学校教育法第21条第3号に掲げられている「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」という目標を達成することができる。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4(1)に示すような課題を踏まえて、小学校では、市の独自プランに、子どもたちが主体的に取り組むことができるような魅力的な言語活動を設定していきたい。特に高学年では、魅力的な言語活動の設定をすることを前提に、聞いたり話したりしたことを「読む」活動や「書く」活動につなげ、4技能をバランスよく身につけられるよう授業改善を図っていく。また、それぞれの単元でどんな力を身に付けていくのか評価規準をより明確にしていきたい。

中学校の「拡充英語科」については、小学校との関連を踏まえ、既習事項を繰り返し活用する内容を工夫することで、コミュニケーション能力のさらなる育成を図っていく。英語科授業改善を図っていくため、有識者による英語科検討委員会での助言を英語科研究事業に取り入れながら、各種研修会の充実を図っていく。具体的には、小学校と中学校の教員の交流や協議を設け連携を促進する研修、日本人教員自身が自分の授業を振り返り自己の目標を見出すことができる研修、若年層教員の困り感に対し、具体的な取り組みを提案するなどの研修に取り組み、各学校の教員を支援していく。